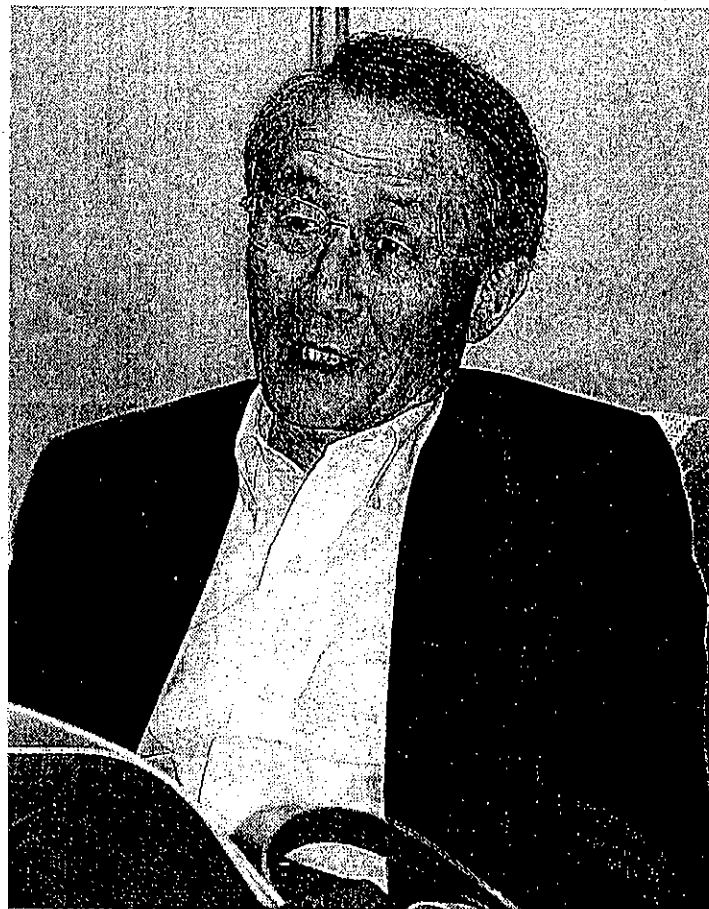


離反の訳 支持の心



ひらの みのる 書店「平安堂」会長
39年、飯田市生まれ。日大法学部卒。県内最大の書店チェーン・平安堂の社長を経て、96年から会長。

「初当選以来、支持し続けているのはなぜですか。」

「発想が鮮烈だった。立脚する基盤が組織や団体ではなく、徹底して個人。お年寄りや子ども、子育てに疲れた母親など、高い地位や強い立場を持たない人へのまなざしが温かい。この基本は変わっていない。反・田中陣営は「候補を一本化

一歩も引かぬ強さある

利権政治排除なお半ば

「しなやかで勝てない」といふ。知事その強さがどこに起因するのか、じっくり考えて欲しい。具体的な政策の評価

1知事を生んだ人たち

「しなやかな県づくり」を掲げた田中康夫知事の誕生から約6年、県議会から不信任を突きつけられての出直し選から4年がたちました。8月6日の知事選挙を前に、支持・不支持が交錯する「田中県政」についての意見や考え方を対論形式で紹介し、初回は、双方とも田中知事の当選に尽力し、支持を続ける平野稔さんと、後に離反した茅野実さんに聞きました。

対論

田中県政とは

「最初は支持し、後に離反した。なぜですか。」
「震災ボランティアや神戸の空海建設反対の運動を見て、「なんて私利私欲のない人だ」と思った。だが、後から普通よりもっと私利私欲の人だと気づいた。」

「具体的には、自分が目立つことだけを考えている。」「脱ダム宣言」(注①)という言葉は

壊し上手のつくり下手 苦しみ救わず 役割終了

「壊す仕事は評価していい。壊すことだけで辞めてくれば、銅像を建ててもよい。公共事業は、普通なら業界の反発が恐ろしくて、あんなスピードで減らせない。また、きちんとした入札制度を導入したので、利権集団は崩壊した。同和対策事業の見直し(注⑩)もなかなかできないことだったと思う。」

「二項対立にする。議論に勝って自分が高みに立つにはよいが、県民のことを考えての行動ではない。」

「改革はまだ途上との意見もあります。建設業界の失業者など、改革で痛い目に遭った人の苦しみは救われず、困る。」



ちの みのる 茅野 実 八十二銀行元頭取
県環境保全協会会長。33年、岡谷市生まれ。東大法学部卒。八十二銀行頭取、会長や、全国地方銀行協会副会長を歴任した。

「一部に『有力者』や『顔役』に取り込まれず、多くの県民には『頼もしい』と映っているのではないかと。県職員との長時間の団交をやり遂げるなど、対話から

「だが、県民の6割近くは、私のように、田中氏の思想や政治哲学、議会や方針(注②)を削って一後は知らない」ではなく、失業した人を救う手だてがなければ産業政策としては幼稚。農業や林業への転換事業はしているが、十分なボリュームになっていない。財政再建も大切だが、何にでも一より加減がある。過剰たるは及ばざるがごとしだ。」

「県議会議員も有権者には選ばれています。知事は、個人の政治に對する願いや祈りで選ばれる。しかし、県議の選挙だと住民はしがらみから逃れられない。県議は、田中氏に対する自分たちの見方と、県民の見方の隔たりに気づくべきだ。もし田中氏が選ばれたら古参県議は3連敗。もう、辞職すべきだろう。」

「かつての支持者の多くが離れました。田中氏のそばに近づくと、その個性的な人柄、苛烈な性格に触れて中毒を起す。だから、政治家に人柄や人格を求める人は離れていく。私も生身の人間なので、あまり近づかない。私だから言っていることを聞かなくていいよ。」

「だが、田中氏に求めるのは、私のような、田中氏の思想や政治哲学、議会や方針(注②)を削って一後は知らない」ではなく、失業した人を救う手だてがなければ産業政策としては幼稚。農業や林業への転換事業はしているが、十分なボリュームになっていない。財政再建も大切だが、何にでも一より加減がある。過剰たるは及ばざるがごとしだ。」

「田中県政で県民は損をしましたが。県職員6千人のやる気を奪った。人件費が1人1千万円とすると、半分しか働かなければ300億円の損失。普通の企業なら倒産だ。独裁者のように、気に入らない職員をどんどん左遷するから、安定して仕事ができない。外部からの任期付き職員も制度としてはよいが、運用が悪い。」

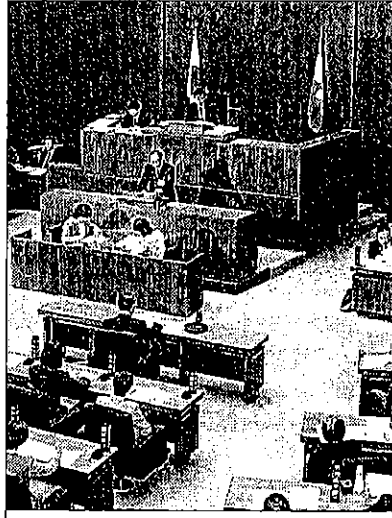
「次の知事はどういふ人がいいですか。普通の人。施策を誠実に実行してくれる改革派で、6千人の職員を束ねられる人。格別の力がないとできないことには、田中さん、あなたをやってくれた。だが、その役割は終わりました。」

◆この企画は随時掲載します。

体験・意見・提案お寄せください

県の課題や政策、知事選などをテーマにした対論を随時掲載します。あなたの体験や意見、感想をお寄せください。また、読みたいテーマや、聞いてみたい論者の提案も募集します（連絡先を明記）。

<電子メール>
chijisen-nagano@asahi.com
<ファクス>
026・223・7331
<郵便>
〒380-0921
長野市栗田989-1
長野朝日放送5階
朝日新聞長野総局



田中知事の告発議案が可決された県議会2月定例会

2氏が取り上げた6年間の施策

- (注1) 1学級の児童数を35人以下にする施策。02年度に小学1年で始まり、04年度に小学6年まで拡大。
- (注2) 宅老所に子供や地域住民も交流できる機能を加えた施設。06年3月末現在、県内に297カ所ある。
- (注3) 47都道府県で唯一、5年連続で県債残高が減少。
- (注4) 県産間伐材の有効活用と景観向上を目的に設置。06年3月末の総延長は11*。
- (注5) 旧山口村の岐阜県中津川市への合併申請に知事が反対。県議会が、04年12月に議



県道に設置された木製ガードレール＝安曇野市で

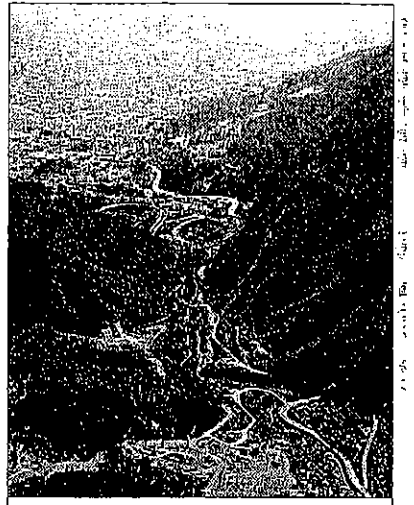
員提案で可決。知事も05年1月に総務相に申請した。
(注6) 01年2月に「出来る限り、コンクリートのダムを



富士見町で行われた51回目の車座集会 4月

造るべきではない」と宣言。九つの河川でダム建設が再検討されている。
(注7) 県民との直接対話を目的に00年に開始。これまでに51回開催した。
(注8) 03年4月、県は浅川の河川改修計画原案を公表。その後、放水路案なども出され

たが、国土交通省の認可を得られていない。
(注9) 昨年9月、県が96年から進めていた阿智村での廃棄物最終処分場計画を採算性が取れないとして中止した。
(注10) 01年度に26億円あった同和対策事業を06年度までに4千万円に縮小。



「脱ダム宣言」で中止された浅川ダムの建設予定地＝長野市